

東北厚生局長 殿

山形大学医学部附属病院長
久保田 功 (印)

山形大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成24年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	232人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	311人	13人	315.8人	看護補助者	47人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	12人	0人	12.0人	理学療法士	6人	臨床検査技師	36人
薬剤師	29人	0人	29.0人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	3人	その他	0人
助産師	14人	0人	14.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	513人	19人	527.7人	臨床工学技士	9人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	0人	0人	0.0人	栄養士	1人	その他の技術員	5人
歯科衛生士	1人	0人	1.0人	歯科技工士	1人	事務職員	75人
管理栄養士	6人	0人	6.0人	診療放射線技師	30人	その他の職員	128人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	551.9人	10.1人	562.0人
1日当たり平均外来患者数	1112.1人	46.1人	1158.2人
1日当たり平均調剤数	804.5剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
神経変性疾患の遺伝子診断	8人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	3人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

- (注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。
- (注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
該当なし	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1)「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	56 人	・膿疱性乾癬	4 人
・多発性硬化症	32 人	・原発性胆汁性肝硬変	39 人
・重症筋無力症	37 人	・重症急性膵炎	15 人
・全身性エリテマトーデス	108 人	・特発性大腿骨頭壊死症	36 人
・再生不良性貧血	21 人	・混合性結合組織病	27 人
・サルコイドーシス	30 人	・原発性免疫不全症候群	3 人
・筋萎縮性側索硬化症	18 人	・特発性間質性肺炎	12 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	81 人	・網膜色素変性症	22 人
・特発性血小板減少性紫斑病	15 人	・肺動脈性肺高血圧症	10 人
・結節性動脈周囲炎	5 人	・神経線維腫症	18 人
・潰瘍性大腸炎	145 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1 人
・大動脈炎症候群	10 人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	6 人
・ピュルガー病	11 人	・ライソゾーム病	2 人
・天疱瘡	15 人	・脊髄性筋萎縮症	2 人
・脊髄小脳変性症	33 人	・球脊髄性筋萎縮症	3 人
・クローン病	58 人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	6 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	4 人	・肥大型心筋症	4 人
・悪性関節リウマチ	7 人	・ミトコンドリア病	6 人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	69 人	・黄色靭帯骨化症	2 人
・アミロイドーシス	3 人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	131 人
・後縦靭帯骨化症	17 人		
・ハンチントン病	5 人		
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	36 人		
・ウェゲナー肉芽腫症	7 人		
・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	44 人		
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	12 人		
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2 人		

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・インプラント義歯	・
・先天性難聴の遺伝子診断	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	9回/年
部 検 の 状 況	部検症例数 28例 / 部検率 8.2%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ヒトの質感認知の脳神経メカニズムに関する臨床的研究	鈴木 匡子	高次脳機能障害科	2,100,000	補委 文部科学省科学研究費
がん治療に伴う高次脳機能障害に関する統合的研究	鈴木 匡子	高次脳機能障害科	700,000	補委 文部科学省科学研究費
新たな視点での卵巣がん薬剤耐性化の解明:メタボロミクスの応用とオートファジー解析	倉智 博久	産婦人科	3,100,000	補委 文部科学省科学研究費
新規遺伝子改変マウスを用いた転写因子MafBの気腫化肺形成に関わる機序の探求	柴田 陽光	第一内科	3,400,000	補委 文部科学省科学研究費
Lipid raftによるOHC細胞骨格制御機構—聴覚における脂質の機能解明—	欠畑 誠治	耳鼻咽喉科	3,800,000	補委 文部科学省科学研究費
生活習慣を考慮した、糖尿病、高血圧、等の生活習慣病の危険遺伝因子の解析	大門 眞	第三内科	500,000	補委 文部科学省科学研究費
遺伝性色素異常症病因遺伝子の機能の解明	鈴木 民夫	皮膚科	600,000	補委 文部科学省科学研究費
マイクロRNAによる泌尿器科癌の癌(抑制)遺伝子制御の研究	富田 善彦	泌尿器科	500,000	補委 文部科学省科学研究費
加齢による卵の質の低下の分子機構—メタボロミクスとオートファジー解析—	高橋 俊文	産婦人科	1,200,000	補委 文部科学省科学研究費
IgG4硬化性疾患の病態の解明と関与分子を標的とした治療法の開発	太田 伸男	耳鼻咽喉科	500,000	補委 文部科学省科学研究費
耳介軟骨細胞を利用した再生軟骨による顎関節再建に向けた戦略的研究	飯野 光喜	歯科口腔・形成外科	1,000,000	補委 文部科学省科学研究費
発話における遠心性コピーの神経機構:頭蓋内脳波による検討	丹治 和世	高次脳機能障害科	1,400,000	補委 文部科学省科学研究費
耐糖能障害は感染性呼吸器疾患発症の危険因子となりうるか、舟形町疫学研究	大泉 俊英	第三内科	700,000	補委 文部科学省科学研究費
動脈硬化性冠動脈疾患における心外膜脂肪の意義に関する研究	二藤部 丈司	第一内科	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費
新規遺伝子変換マウスによるCCL1の呼吸器細菌感染症における機能解析	井上 純人	第一内科	1,100,000	補委 文部科学省科学研究費
microRNA・尿プロテオーム解析による腎障害発症機序の解明とその臨床応用	今田 恒夫	第一内科	1,000,000	補委 文部科学省科学研究費
パーキンソン病治療標的としての α -シヌクレイン発現抑制のin vivo解析	荒若 繁樹	第三内科	700,000	補委 文部科学省科学研究費

嗜銀顆粒性認知症の画像診断とアポリポ蛋白E多型	川勝 忍	精神科	800,000	補委	文部科学省科学研究費
環境と遺伝子の相互作用が人格形成に与える影響	大谷 浩一	精神科	400,000	補委	文部科学省科学研究費
MRIを用いた脳動脈解離診断法の確立	細矢 貴亮	放射線診断科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費
新しいバイオマーカーを用いた食道癌照射野の個別化	根本 建二	放射線診断科	700,000	補委	文部科学省科学研究費
閉経後女性の内臓脂肪蓄積機構の解明－メタボローム解析による創薬に向けた基礎的研究	高橋 一広	産婦人科	900,000	補委	文部科学省科学研究費
腹部大動脈破綻におけるMafBの役割解明及びPET/CTを用いた画像化の試み	渡邊 哲	第一内科	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費
家族性正常圧水頭症の病因遺伝子の探索	加藤 丈夫	第三内科	2,200,000	補委	文部科学省科学研究費
HRM法と次世代シーケンサーによる早期発症てんかん性脳症の新規病因遺伝子同定	加藤 光広	小児科	3,000,000	補委	文部科学省科学研究費
先天性好中球減少症のG-CSF受容体関連遺伝子異常の臨床的・生物学的意義	三井 哲夫	小児科	600,000	補委	文部科学省科学研究費
色素異常に関与する新規分子の同定と機能解析	川口 雅一	皮膚科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費
人工関節感染症における自然免疫系受容体TLRとNLRの機能解析	高木 理彰	整形外科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費
免疫監視細胞マクロファージを用いた急性炎症応答の評価	川前 金幸	麻酔科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費
ポリコム複合体による卵巣癌幹細胞のエピジェネティックな遺伝子制御機構の解明	須藤 毅	産婦人科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費
聴性定常反応と睡眠脳波を応用した新しい他覚的聴力検査法の開発	伊藤 吏	耳鼻咽喉科	2,400,000	補委	文部科学省科学研究費
糖尿病網膜症病態における炎症機転惹起の分子機構と治療戦略の確立	山下 英俊	眼科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費
中枢神経損傷後におけるニューロン・グリア相互作用の解明	伊関 憲	救急部	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費
慢性組織障害とクロマチン構造変化を介した心不全治療戦略の開発	久保田 功	第一内科	1,800,000	補委	文部科学省科学研究費
卵巣がん人工多能性癌幹細胞(iPC)の樹立と機能解析－薬剤抵抗性の観点から	倉智 博久	産婦人科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費
うつ病の治療抵抗性に関与する心理的・生物学的要因の検討	鈴木 昭仁	精神科	600,000	補委	文部科学省科学研究費

臓器組織間の相互作用とエピジェニック制御による早期心不全の治療戦略の開発	宍戸 哲郎	第一内科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費
リポ蛋白系球体症の疫学および病態解明	橋本 多恵子	小児科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費
抗腫瘍免疫誘導におけるSTAT3とヒストンアセチル化機構の解明	小野田 正志	小児科	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費
遺伝性体側性色素異常症におけるリボ核酸編集障害とウイルス防御機構破綻の解析	林 昌浩	皮膚科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費
グリオーマ幹細胞のMGMT発現におけるMAPK経路の役割	佐藤 篤	脳神経外科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費
眼内増殖性網膜疾患病態解明に向けた硝子体細胞の機能解析と治療戦略	西塚 弘一	眼科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費
トロンボモジュリンの眼組織での作用研究とその臨床応用	難波 広幸	眼科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費
歯科医師の遺伝毒性影響に関する研究	石川 恵生	歯科口腔・形成外科	100,000	補委	文部科学省科学研究費
新規転写因子MafB遺伝子改変マウスを用いたマクロファージ腫瘍免疫機構の探究	山内 啓子	第一内科	1,800,000	補委	文部科学省科学研究費
高齢者の健康と認知症をめぐる環境・社会要因研究:アジアとの比較より	伊関 千書	第三内科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費
Fahr病の病因遺伝子の探索	小山 信吾	第三内科	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費
微小粒子は、関節リウマチの形質細胞様樹状細胞を刺激し自然免疫反応を引き起こすか	高窪 祐弥	整形外科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費
WT1の新規標的分子としての可能性: 卵巣癌発がんと薬剤抵抗性機序への関与	太田 剛	産婦人科	1,800,000	補委	文部科学省科学研究費
アディポサイトカインと卵胞発育一多嚢胞性卵巣症候群の治療成績向上を目指して一	原 周一郎	産婦人科	2,000,000	補委	文部科学省科学研究費
新規標的分子を介した炎症性鼻疾患に対する治療法の開発	石田 晃弘	耳鼻咽喉科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費
加齢および慢性炎症による細胞障害が誘導するDアミノ酸発現の解明	鈴木 祐輔	耳鼻咽喉科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費
糖尿病黄斑浮腫に対するポートフォリオシステムの構築	後藤 早紀子	眼科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費
脳脊髄液減少症の診断・治療法の確立に関する研究	嘉山 孝正	脳神経外科	25,000,000	補委	厚生労働省科学研究費
先天性中枢性低換気症候群(CCHS)の診断・治療・管理法の確立	早坂 清	小児科	4,500,000	補委	厚生労働省科学研究費

傍シルビウス裂症候群の病態に基づく疾患概念の確立と新しい治療法の開発に関する研究	加藤 光広	小児科	5,000,000	補 委	厚生労働省科学研究費
平成24年度脳卒中・心筋梗塞発症登録評価研究事業	成松 宏人	医療情報部	4,405,000	補 委	山形県
脳形成障害の病態解明	加藤 光広	小児科	2,000,000	補 委	国立精神・神経医療 研究センター
放射線治療を含む集学的治療の研究	根本 建二	がん臨床センター	0	補 委	国立がん研究セン ター
病院設置型加速器ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)システムの開発	嘉山 孝正	脳神経外科	2,000,000	補 委	国立がん研究セン ター
術中MRIを用いた新規外科治療法の開発	櫻田 香	脳神経外科	2,000,000	補 委	国立がん研究セン ター
冠血行再建術による心血管イベントリスクの減少効果を 負荷心筋血流スペクトを用いた虚血量定量で評価する ための調査研究	渡邊 哲	第一内科	21,000/件	補 委	公益財団法人循環器 病研究振興財団
循環器領域における感染対策および感染症の診療指針 の確立に関する研究	久保田 功	第一内科	900,000	補 委	国立循環器病研究セ ンター
ハイリスク消化管間質腫瘍(GIST)に対する完全切除後 の治療に関する研究	木村 理	第一外科	20,000/件	補 委	公益財団法人先端医 療振興財団

(注)

- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Lung. 2012 Apr; 190(2): 169-182	Oxidized phospholipid, 1-Palmitoyl-2-(9'-Oxo-Nonanoyl)-Glycerophosphocholine (PON-GPC), produced in the lung due to cigarette smoking, impairs immune function in macrophages.	Kimura T	第一内科
J Am Soc Echocardiogr. 2012 May; 25(5): 576-583	Prognostic value of low left atrial appendage wall velocity in patients with ischemic stroke and atrial fibrillation.	Tamura H	第一内科
Int J Nephrol. 2012; 2012: 231018	Comparison of mortality between Japanese peritoneal dialysis and hemodialysis patients: A 5-Year Multicenter follow-up study.	Suzuki K	第一内科
J Card Fail. 2012 Jul; 18(7): 556-563	Circulating heart-type fatty acid binding protein levels predict the occurrence of appropriate shocks and cardiac death in patients with implantable cardioverter-defibrillators.	Daidoji H	第一内科
Clin Exp Nephrol. 2012; 16: 564-569	Relationship between kidney damage and stroke types in Japanese patients.	Kudo K	第一内科
J Cardiol. 2012 Aug; 60(2): 126-132	Elevated plasma brain natriuretic peptide levels predict left atrial appendage dysfunction in patients with acute ischemic stroke.	Tamura H	第一内科
Europace. 2012 Aug; 14(8): 1217-1219	Device troubleshooting: cross connection of ventricular leads in a patient with decreased right ventricular electrical activity.	Kutsuzawa D	第一内科
J Cardiol. 2012 Dec; 60(6): 454-461	Ongoing myocardial damage in patients with heart failure and preserved ejection fraction.	Kutsuzawa D	第一内科
Exp Diabetes Res. 2012; 2012: 815098	Impact of insulin resistance on silent and ongoing myocardial damage in normal subjects: the Takahata study.	Narumi T	第一内科
Heart Vessels. 2012 Dec 30. [Epub ahead of print]	Acidic urine is associated with poor prognosis in patients with chronic heart failure.	Otaki Y	第一内科
Clin Nephrol. 2013 Jan; 79(1): 15-20	Rapid decline in renal function after acute myocardial infarction.	Mashima Y	第一内科
Int J Med Sci. 2013; 10(1): 1-7	Retrospective analysis of the relationship between decline in FEV(1) and abdominal circumference in male smokers: The Takahata study.	Sato M	第一内科
Circ J. 2013;77(2):484-489	Renal tubulointerstitial damage is associated with short-term cardiovascular events in patients with myocardial infarction.	Funayama A	第一内科
Ther Apher Dial. 2012; 16(5):449-55.	Production of interleukin-10 by combining a granulocyte and monocyte adsorption carrier with ulinastatin.	佐藤 剛司	第二内科
Biochem Biophys Res Commun. 2012; 425(2):266-72.	Increased secretion of insulin and proliferation of islet β -cells in rats with mesenteric lymph duct ligation.	名木野 匡	第二内科
Hepatology 2012; 56(6): 2288-96.	Liver X receptor beta and peroxisome proliferator activated receptor delta regulate cholesterol transport in murine cholangiocytes.	上野 義之	第二内科
Hepatology Res 2012; 42(7): 621-6.	Guidelines on nutritional management in Japanese patients with liver cirrhosis from the perspective of preventing hepatocellular carcinoma.	上野 義之	第二内科
Am J Hum Genet 2012; 91(4): 721-8.	Genome-wide Association Study Identifies TNFSF15 and POU2AF1 as Susceptibility Loci for Primary Biliary Cirrhosis in the Japanese Population.	上野 義之	第二内科

Ther Apher Dial. 2012;16(5):478-9.	Double filtration plasmapheresis could induce a favorable immune response for chronic hepatitis C therapy.	上野 義之	第二内科
J Gastroenterol 2012;47(12):1323-35.	Sequential immunological analysis of HBV/HCV co-infected patients during Peg-IFN/RBV therapy.	上野 義之	第二内科
Hepatol Res 2012;42(6):523-42.	Guideline on the use of new anticancer drugs for the treatment of HepatoCellular Carcinoma 2010 update.	上野 義之	第二内科
Journal of Clinical Virology 2012;55(2):147-52.	Association between S21 substitution in the core protein of hepatitis B virus and fulminant hepatitis.	上野 義之	第二内科
American Journal of Physiology Gastrointestinal and Liver Physiology. 2012;303(11):1202-11.	The novel growth factor, progranulin, stimulates mouse cholangiocyte proliferation via sirtuin-mediated inactivation of FOXO1.	上野 義之	第二内科
Intern Med. 2013;52(3):351-4	Nine-year follow-up from onset to spontaneous complete remission of cap polyposis.	佐々木 悠	第二内科
Hepatology. 2013;57(3):1130-41.	Modulation of the biliary expression of arylalkylamine N-acetyltransferase alters the autocrine proliferative responses of cholangiocytes in rats.	上野 義之	第二内科
Ann Hematol. 2012;91(9):1499-1500	Rituximab pharmacokinetics in ascites and serum in the treatment of follicular lymphoma with massive ascites.	廣島 由紀	第三内科
Metabolism Clinical and Experimental. 2012; 61: 504-511	Higher plasma renin activity is a risk factor for total mortality in older Japanese individuals: the Takahata study.	大門 眞	第三内科
Internal Medicine	A Japanese adult case of megalencephalic leukoencephalopathy with subcortical cysts with a good long-term prognosis.	小山 信吾	第三内科
Clinical Neurology and Neurosurgery. 2012; 114: 707-709	Carpal tunnel syndrome as an initial manifestation in a case of transthyretin-related familial amyloid polyneuropathy with a novel A120T mutation.	小山 信吾	第三内科
Jpn J Clin Oncol. 2012;42(8):742-747	Thyroid dysfunction in patients treated with tyrosine kinase inhibitors, sunitinib, sorafenib and axitinib, for metastatic renal cell carcinoma.	大門 眞	第三内科
Pathology International. 2012; 62: 577-582	Malignant lymphoma of the spleen in Japan: A clinicopathological analysis of 115 cases.	高野 桂	第三内科
Ann Hematol. 2012; 91(12):1991-1992	The pharmacokinetic analysis of cyclosporine is essential for the management of refractory pure red cell aplasia.	加藤 裕一	第三内科
Internal Medicine. 2012; 51: 1751-1753	Changes in the subarachnoid space precede ventriculomegaly in idiopathic normal pressure hydrocephalus (iNPH).	伊関 千書	第三内科
Case Reports in Neurology. 2012; 4: 144-148	Alterations of the cerebral white matter in a middle-aged patient with Turner syndrome: An MRI study.	丹治 治子	第三内科
Internal Medicine. 2012; 51: 2131-2134	An elderly Japanese patient with adult-onset type II citrullinemia with a novel D493G mutation in the SLC25A13 gene.	高橋 賛美	第三内科
ISRN Neurology. 2012; Article ID 508308: 4pages	UBR5 gene mutation is associated with familial adult myoclonic epilepsy in a Japanese family.	加藤 丈夫	第三内科
Clinical Neurology and Neurosurgery. 2012; 114: 1021-1023	A case of cerebrotendinous xanthomatosis presenting with epilepsy as an initial symptom with a novel V413D mutation in the CYP27A1 gene.	小山 信吾	第三内科
International Journal of Epidemiology. 2012; 41: 1419-1433	Adult height and the risk of cause-specific death and vascular morbidity in 1 million people: individual participant meta-analysis.	大門 眞	第三内科

Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases.2012; 21(8): 916.e7-9	Bow hunter's syndrome after contralateral vertebral artery dissection.	山口 佳剛	第三内科
Internal Medicine: 2012; 51: 2609-2612	Soft J-tipped guide wire-induced cardiac perforation in a patient with right ventricular lipomatosis and wall thinning.	廣島 由紀	第三内科
循環器内科. 2012; 71(2)133-139	Small-vessel diseaseと認知機能.	和田 学	第三内科
日本臨床. 2012; 70(3): 256-259	疫学研究・大規模臨床試験より得られたEBM.	大門 眞	第三内科
内分泌・糖尿病・代謝内科. 2012; 34(3): 285-286	ソマトスタチン受容体シンチグラフィの使用経験例.	亀田 亘	第三内科
ホルモンと臨床. 2012; 59: 17-22	ゲノムコピー数多型解析(CNV)と疾患研究.	佐藤 秀則	第三内科
臨床神経学. 2012; 52(8): 545-550	SLEを背景とし、病態に抗グルタミン酸受容体抗体の関与が示唆された自己免疫疾患関連性辺縁系脳炎の1例.	山口 佳剛	第三内科
神経内科. 2012; 77(4): 417-419	長時間経過を観察し得た腓腹筋肥大を伴うS1神経根症の1症例.	伊関 千書	第三内科
J Hum Genet. 2013 Jan;58(1):7-10.	Association of breast-fed neonatal hyperbilirubinemia with UGT1A1 polymorphisms: 211G>A (G71R) mutation becomes a risk factor under inadequate feeding.	Sato Hiroko	小児科
J Hum Genet. 2012 May;57(5):335-7.	Inheritance of polyalanine expansion mutation of PHOX2B in congenital central hypoventilation syndrome.	Meguro Toru	小児科
Pediatr Int. 2012 Oct;54(5):709-11.	Respiratory syncytial virus-associated encephalopathy complicated by congenital myopathy.	Nakamura Kazuyuk	小児科
J Affect Disord. 2012;136(3):824-827	Parental overprotection increases sociotropy with gender specificity in parents and recipients.	大谷 浩一	精神科
J Nerv Ment Dis. 2012; 200(2): 153-5	Interpersonal sensitivity is correlated with sociotropy but not with autonomy in healthy subjects.	大谷 浩一	精神科
Dement Geriatr Cogn Disord. 2012;34(5-6):328-331	Application of the VSRAD, a specific and sensitive voxel-based morphometry, to comparison of entorhinal cortex atrophy between dementia with Lewy bodies and Alzheimer's disease.	林 博史	精神科
Psychiatry Res. 2012; 200(2-3):945-8	Interaction effect between the BDNF Val66Met polymorphism and parental rearing for interpersonal sensitivity in healthy subjects.	鈴木 昭仁	精神科
Acta Neuropsychiatrica. 2012; 24 :314-315	Long-term specificity and stability of somatic delusions in delusional disorder, somatic type.	澁谷 諒	精神科
Clin Neuropharmacol 2012; 35:204	Capgras syndrome occurring in lithium toxicity.	長澤 浩樹	精神科
J Dermatol. 2012; 39: 84-87	Case of epidermolytic palmoplantar keratoderma with knucklepads.	Hayashi M	皮膚科
J Dermatol Sci. 2012; 66: 245-246	Eleven novel mutations of the ADAR1 gene in dyschromatosis symmetrica hereditaria.	Kawaguchi M	皮膚科
J Dermatol. 2012; 39: 699-704	Lipocalin-type prostaglandin D synthase as a marker for the growth potential of melanocyte-lineage cells in the human skin.	Shimanuki M	皮膚科

J Invest Dermatol. 2012; 132(12):2791-2799	Diacylglycerol kinase regulates tyrosinase expression and function in human melanocytes.	Kawaguchi M	皮膚科
日皮会誌. 2012; 122: 1725-1740	尋常性白斑診療ガイドライン.	鈴木 民夫	皮膚科
J Comput Assist Tomogr. 2012; 36(1):121-124	Focal Deformity of the Cranial Nerves Observed on Multislice Motion-Sensitized Driven Equilibrium (MSDE) in Patients With Neurovascular Compression.	鹿戸 将史	放射線診断科
Magn Reson Med Sci. 2012; 11(2):141-144	Reversible Distension of the Subarachnoid Space around the Optic Nerves in a Case of Idiopathic Hypertrophic Pachymeningitis.	平賀 利匡	放射線診断科
Eur J Radiol. 2012; 82(1):146-150	Brain Stem and Cerebellar Atrophy in Chronic Progressive Neuro-Behçet's Disease.	鹿戸 将史	放射線診断科
J Med Case Rep. 2012;6(1):308	Radiotherapy for inoperable and refractory endometriosis presenting with massive hemorrhage: a case report.	野宮 琢磨	がん臨床センター
J Radiat Res.2012;53(4):588-93	Impact of concurrent chemotherapy on definitive radiotherapy for women with FIGO IIIb cervical cancer.	黒田 勇氣	がん臨床センター
Pancreas 2012;41(1):114-120	Clinicopathologic Study of the MIB-1 Labeling Index (Ki67) and Postoperative Prognosis for Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms and Ordinary Ductal Adenocarcinoma	Takeshita Akiko	第一外科
Pancreas 2012 Apr;41(3):380-387	Multicenter Study of Serous Cystic Neoplasm of the Japan Pancreas Society	Wataru Kimura	第一外科
日本内科学雑誌 2012;101(1):p79-92	膵管内乳頭粘液性腫瘍の国際診療ガイドラインと診療の現状	木村 理	第一外科
膵臓 2012;27(4):p572-583	膵漿液性嚢胞腫瘍 (Serous cystic neoplasm)の全国症例調査	木村 理	第一外科
胆道 26巻4号 641~643(2012)	右側肝円索に合併した胆嚢癌の1例	福元 剛	第一外科
気管支学 2012;34(4):314-319	小児気道異物の検討-異物把持鉗子の開発と使用成績-	遠藤 誠	第二外科
日本血管外科学会雑誌 2012;21(5):663-668	広範囲胸部大動脈瘤ハイリスク症例に対するlong elephant trunkを用いたpull-through法.	内田 徹郎	第二外科
日本心臓血管外科学会雑誌 2012;41(5):250-252	奇異性脳塞栓症を発症した卵円孔開存に対するポートアクセス手術.	内田 徹郎	第二外科
日本呼吸器外科学会雑誌 2012;26(6):586-590	肺区域切除における術前CTアンギオグラフィー.	鈴木 潤	第二外科
胸部外科 2012;65(13):1105-1111	腋窩動脈送血時における脳循環不全発症例	内田 徹郎	第二外科
胸部外科 2012;65(7):579-582	Marfan症候群におけるCabrol法による冠状動脈再建術後遠隔期の冠状動脈狭窄に対する再手術の1例	前川 慶之	第二外科
胸部外科 2012;65(11):999-1002	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌人工血管感染に対するホモグラフトを用いた再上行大動脈置換術の1例-東日本大震災における隣県支援-	中村 健	第二外科
Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery 2013;16:824-829	Port-access thoracoscopic anatomical lung Subsegmentectomy.	加藤 博久	第二外科

胸部外科 2013;66(1):4-10	重症心不全を伴う弁膜症開心術における心臓再同期療法の有用性.	内田 徹郎	第二外科
日本心臓血管外科学会雑誌 2013;42(1):34-37	上腸間膜静脈脈瘤に対する外科治療経験.	林 潤	第二外科
胸部外科 2013;66(2):106-109	MDCT三次元構築像の体表面投影による低侵襲心臓外科手術支援	内田 徹郎	第二外科
胸部外科 2013;66(2):150-153	2回の心臓血管外科手術を必要としたホモ型家族性高コレステロール血症の1例	朝長 高太郎	第二外科
胸部外科 2013;66(3):244-246	OPCAB中に発見された心膜欠損の1例.	中村 健	第二外科
Neurologia medico-chirurgica;2012:52-6;355-429	Usefulness of Multimodal Examination and Intraoperative Magnetic Resonance Imaging System in Glioma Surgery	櫻田香	脳神経外科
2012;40 (3):211-219	類上皮腫に対する外科的治療と治療成績	菊地善彰	脳神経外科
J Hand Surg Am. 2012 ; 37 : 760-763	Metacarpal hypoplasia associated with congenital constriction band syndrome.	Satake H	整形外科
Clin Orthop Surg. 2012 ; 3 : 181-187	Minocycline-induced periarticular black bones found in inflamed joints underwent arthroplastic reconstruction.	Yang S	整形外科
日人工関節会誌. 2012 ; 42 : 439-440	MRIによる大腿神経の走行- エコー法によらないFNB(femoral nerveblock)施行法.	鈴木 朱美	整形外科
肩関節. 2012 ; 36 : 481-483	腱板断裂患者における腱板筋の病理組織像と腱板修復術後成績.	鶴田 大作	整形外科
整形外科. 2012 ; 63 : 1282-1285	脊椎手術周術期に発症した脳梗塞.	長沼 靖	整形外科
関節外科. 2012 ; 31 : 52-57	上腕骨離断性骨軟骨炎.「専門医のための疾患・外傷必須診療ガイド」肘関節・前腕 日常疾患 野球肘.	佐竹 寛史	整形外科
関節外科. 2012 ; 31 : 56-63	THAの合併症対策. 骨溶解・弛み. 病態と対策. 基礎的視点から.	高木 理彰	整形外科
整形外科. 2012 ; 63 : 504	地震大津波被災地と運動器疾患. 過疎・高齢化地域の支援経験から.	高木 理彰	整形外科
整形・災害外科. 2012 ; 55 : 1163	災害は忘れた頃にやってくる？.	高木 理彰	整形外科
日本リハビリテーション医学. 2012 ; 49 : 37-45	地震大津波被災地気仙沼でのリハビリテーション支援経験.	高木 理彰	整形外科
リハビリテーション連携科学. 2012 ; 13 : 21-27	東日本大震災. 地震大津波と廃用症候群.	高木 理彰	整形外科
整形外科手術 イラストレイテッド. 手関節・手指の手術. 東京;中山書店, 2012 : 42-46	側正中切開.	佐竹 寛史	整形外科
運動器診療最新ガイドライン. 東京;総合医学社, 2012 : 439-440	遠位橈尺関節症の診断・治療指針.	佐竹 寛史	整形外科

Cancer Biol Ther 2012;13(1):25-33	Inhibition of the Rho/ROCK pathway enhances the efficacy of cisplatin through the blockage of hypoxia-inducible factor-1 α in human ovarian cancer cells.	太田 剛	産科婦人科
Fetal Diagn Ther 2012;32(3):216-220	A case of boomerang dysplasia with a novel causative mutation in filamin B:identification of typical imaging findings on ultrasonography and 3D-CT imaging.	堤 誠司	産科婦人科
Cancer Biol Ther 2012;13(6):408-416	Gefitinib (ZD1839) increases the efficacy of cisplatin in ovarian cancer cells.	太田 剛	産科婦人科
Gynecol Obstet Invest 2013;75(4):243-249	Spontaneous perforation of pyometra: a report of seven cases and review of the literature.	池田 美智	産科婦人科
日本周産期・新生児医学会 雑誌 2012;48(1):136-141	妊娠17週でHELLP症候群を発症した抗リン脂質抗体症候群合併妊娠	成味 恵	産科婦人科
日本血栓止血学会誌 2012;23(3):280-287	婦人科がん術後における術後抗凝固療法の症候性肺血栓塞栓症予防に関する検討 -静脈血栓塞栓症高リスク患者における検討-	清野 学	産科婦人科
Acta Ophthalmol.2012;90:628-632	Treatment of diffuse diabetic macular oedema using steroid eye drops.	後藤 早紀子	眼科
Update on Strabismology 11;497-501	A case of Myopic Strabismus Fixus with Increased Intraocular Pressure.	羽根田 思音	眼科
臨眼. 2012; 66:807-811.	角膜潰瘍および角膜穿孔病態の臨床的検討.	難波 広幸	眼科
あたらしい眼科.2012;29(5):711-715	縫合可能であった外傷性下直筋断裂の幼児の1例.	三浦 瞳	眼科
あたらしい眼科.2012;29:697-699	劇症型サイトメガロウイルス網膜炎を発症しガンシクロビル全身投与で良好な視力を得た小児の1例.	武田 祐介	眼科
Laryngoscope 122:572-577, 2012	Clinicopathological characteristics of IgG4-related sclerosing sialadenitis.	Ohta Nobuo	耳鼻咽喉科
Laryngoscope 122:2169-2174, 2012	The roles of IL-17 and Th1 and Tc1 cells in patients with IgG4-related sclerosing sialadenitis	Ohta Nobuo	耳鼻咽喉科
Laryngoscope 122:131-133, 2012	Treatment of thyroglossal duct cysts by OK-432.	Ohta Nobuo	耳鼻咽喉科
Acta Otolaryngol 132:838-844, 2012	The role of periostin in eosinophilic otitis media.	Ohta Nobuo	耳鼻咽喉科
J Case Reports in Otolaryngol. Article ID:634949, 2012	A Case of Sublingual Dermoid Cyst: Extending the Limit of the Oral Approach.	Ohta Nobuo	耳鼻咽喉科
Allergol Int. 62:181-189, 2013	Severity assessment of Japanese Cedar Pollinosis using the practical guideline for the management of allergic rhinitis in Japan and the allergic rhinitis and its impact of asthma guideline.	Ohta Nobuo	耳鼻咽喉科
Int. J Otolaryngology 2013	Clinical and pathological characteristics of organized hematoma.	Ohta Nobuo	耳鼻咽喉科
2012; 115(5): 534-539	更年期女性のためまい症状に対する検討	大和田 聡子	耳鼻咽喉科
Facial N Res Jpn 2012;32:137-139	当科におけるA型ボツリヌス毒素を用いた治療の現況	古川 孝俊	耳鼻咽喉科

JOHNS 2012;28:1381-1385	高齢化社会と耳鼻咽喉科 老人性疾患の予防と対策 顔面神経麻痺	古川 孝俊	耳鼻咽喉科
Otolaryngol Clin North Am. 46:227-32, 2013	Transtympanic endoscopy for diagnosis of middle ear pathology.	Takehata S	耳鼻科
ENT & audiology news 21(3): 52-53, 2012	Endoscopic transtympanic approach for diagnosis and treatment utilizing LASER Myringotomy.	Takehata S	耳鼻科
Allergol Int. 2012 Aug 25	Expression of Pendrin and Periostin in Allergic Rhinitis and Chronic Rhinosinusitis.	Ishida A	耳鼻科
専門医通信115: 564-565, 2012	鼓膜穿孔閉鎖術と鼓膜形成術 -最近の進歩-	欠畑誠治	耳鼻科
ENT臨床フロンティア、中山書店、2012	急性難聴の鑑別とその対処法、15. 突発性難聴、5)ステロイド鼓室内注入療法について	欠畑誠治	耳鼻科
JOHNS 28: 754-758, 2012	急性感音難聴に対する鼓室内局所投与療法	窪田俊憲	耳鼻科
Biochemical and Biophysical Research Communications 2012;422(4):607-614	The enhancer of zeste homolog 2 (EZH2), a potential therapeutic target, is regulated by miR-101 in renal cancer cells	Toshihiko Sakurai	泌尿器科
Cancer Letters 2012;315:189-197	Re-expression of miR-199a suppresses renal cancer cell proliferation and survival by targeting GSK-3 β	Masaaki Tsukigi	泌尿器科
Scandinavian Journal of Urology and Nephrology2012;422(4):607-614	Stone clearance after extracorporeal shockwave lithotripsy in patients with solitary pure calcium oxalate stones smaller than 1.0cm in the proximal ureter, with special reference to monohydrate and dihydrate	OSAMU ICHIYANAGI	泌尿器科
Biochemical and Biophysical Research Communications	GSK-3 inhibition in vitro and in vivo enhances antitumor effect of sorafenib in renal cell carcinoma (RCC)	川添 久	泌尿器科
J Orthop Trauma. 2012; 26:214-220	Preliminary Study of Platelet Activation After Embolization of Marrow Contents.	Nakane Masaki	麻酔科
J Anesth. 2012;26(5):650-657	Committee of Crisis Control, the Japanese Society of Respiratory Care Medicine and Committee of Pandemic H1N1 Surveillance, the Japanese Society of Intensive Care Medicine: Extracorporeal membrane oxygenation	Kawamae Kaneyuki	麻酔科
J Anesth. 2012;26(5):721-727	Superior recovery profiles of propofol-based regimen as compared to isoflurane-based regimen in patients undergoing craniotomy for primary brain tumor excision: a retrospective study.	Kawamae Kaneyuki	麻酔科
人工呼吸. 2012;29:181	HFOVによる呼吸管理—重症呼吸不全への挑戦	中根 正樹	麻酔科
日本臨床麻酔学会誌. 2012;32(5):795-797	内視鏡下経蝶形骨洞下垂体腫瘍切除術中の心静止症例	小野寺 悠	麻酔科
熱傷 2012;38(5):266-272	鋳物溶鉄曝露による下腿Ⅲ度熱傷により生じた尖足拘縮に対してアキレス腱延長を行った1例	菊地 憲明	形成外科
日本形成外科学会会誌 2012;32(10):751-756	Cross-leg法を用いた遊離皮弁移植で下肢救済を行った1例	舟山 紗耶	形成外科
日本口腔外科学会雑誌 2012;58(6):362-365	舌に発生したbasaloid squamous cell carcinomaの1例	橘 寛彦	歯科口腔外科
日本歯科技工学会雑誌 2012;33(1):30-34	毛髪試料を用いた歯科技工士の金属暴露に関する調査研究～作業管理との関連～	石川 恵生	歯科口腔外科

日本口腔外科学会雑誌 2012;58(11):660-664	ポリドカノールによる硬化療法を行った口腔内血管腫の1例	橘 寛彦	歯科口腔外科
日本顎変形症学会誌 2013;23(1):25-30	後天性免疫不全症候群患者の顎矯正手術経験	櫻井 博理	歯科口腔外科
Biomedical Research 2012;33(6):345-353	Gliosin-specific transcription factor OASIS coincides with proteoglycan core protein genes in the glial scar and inhibits neurite outgrowth.	Iseki K	救急部
日本臨床救急医学会雑誌 2012;15:685-689	東日本大震災における医学生の動向と災害ボランティア活動に関する調査.	伊関 憲	救急部
日本臨床救急医学会雑誌 2012;15:731-738	東日本大震災における停電下での山形県救急医療機関の状況.	伊関 憲	救急部
日本臨床救急医学会雑誌 2012;15:739-744	東日本大震災における山形県の在宅酸素療法および在宅人工呼吸療法患者の受診状況.	伊関 憲	救急部
心臓 2012;44(12):1521-1525	現場で胸骨圧迫のみのCPRを行い、社会復帰した院外心停止の1例.	伊関 憲	救急部
日本救急医学会雑誌 2012;23(11):775-780	ジフルオロエタン吸入後に窒息死した1例.	伊関 憲	救急部
Gastroenterology 2012 ;143(5):1188-1198	Altered cognitive function of prefrontal cortex during error feedback in patients with irritable bowel syndrome, based on fMRI and dynamic causal modeling. Gastroenterology	斎藤 尚宏	高次脳機能科
神経心理学 2012;28(3):223-228	Awake craniotomy 言語マッピングのガイドライン	鈴木 匡子	高次脳機能科
Dementia Japan 2013;27(1);62-69	Multimodal mental exercises improved verbal fluency as one of the effects of the health promotion project for preventive care in a Japanese agricultural area	鈴木 匡子	高次脳機能科
Case Reports in Oncology 2012;5(2):233-237	Remarkable Regression of an Osteolytic Lesion of Large Cell Lung Cancer Treated with Zoledronic Acid	Sadayuki Kawai	腫瘍内科
外科と代謝 2012;46(6)169-177	「がん治療患者に対する栄養療法—治療完遂をめざした新しい栄養支持療法」食道癌化学療法におけるエレンタールの口内炎予防・軽減効果について	福井 忠久	腫瘍内科
米沢市立病院医学雑誌 2012;32(1)37-40	当院における院外心停止例のまとめ(2009年度~2010年度)	鈴木 修平	腫瘍内科
Annals of Oncology 2013(Epub)	Critical review of “Public domain application”:a flexible drug approval system in Japan.	Yuriko Ito	腫瘍内科
日本外科感染症学会雑誌 2013;10(1):83-91	NNIS・NHSNにおけるサーベイランス	森兼 啓太	検査部
山形医学検査 2013;22(1):3-6	シクロフォスファミド投与後の血清コリンエステラーゼの変動:低下例の発生頻度および投与量との関係	阿部 知世	検査部
Rheumatol Int. 2012 ; 32 : 3487-3494	Mid-term clinico-radiologic findings of an open label observation study of add on tacrolimus with biologics or non-biologic DMARDs.	Takakubo Y	リハビリテーション部
Hip Joint. 2012 ; 38 : 668-671	当院における不安定性骨盤輪損傷の治療成績.	佐々木 幹	リハビリテーション部
関節の外科. 2012 ; 39 : 19-2	リウマチ性疾患のジャックー関節症における病理組織学的検討.	高窪 祐弥	リハビリテーション部

理学療法学. 2012 ; 39: 373-377	整形外科疾患の理学療法におけるリスク管理.	石川 雅樹	リハビリテーション部
地域リハビリテーション. 2012 ; 7 : 386-392	脳卒中と関節疾患.	佐々木 幹	リハビリテーション部
リハビリテーション連携科学. 2012 ; 13 : 52	緊急リハビリ支援 -山形と気仙沼での経験から-	村川 美幸	リハビリテーション部
Fokter SK (Ed.), In Recent Advances in Arthroplasty, Rijela, INTECHopen. 2012 ; 324-327	Does it exist something like long-term tolerance to an implant? Aseptic loosening of total hip arthroplasty as a result of local failure of tissue homeostasis.	Takakubo Y	リハビリテーション部
Pathol Int. 2012; 62(1): 60- 64	Peripheral T-cell lymphoma arising from an intraglandular lymph node in the parotid gland: a case report and literature review.	刑部 光正	病理部
Pathol Int. 2012; 62(8): 513-517	Comparison of HER2 immunohistochemical results using a monoclonal antibody (SV2-61 γ) and a polyclonal antibody (for Dako HercepTest) in advanced gastric cancer.	刑部 光正	病理部
Scand J Rheumatol. 2012;41(6):413-420	Distribution of regulatory T cells and interaction with dendritic cells in the synovium of rheumatoid arthritis.	山川 光徳	病理部
Intem Med. 2012;51:2825- 2830	Immunopathological analysis of Erdheim-Chester disease with massive ascites.	山川 光徳	病理部
癌と化学療法. 2012;39:1287-1289	AI併用療法が奏効した多発肺転移を伴う成人PNETの1 症例.	山川 光徳	病理部
日本臨床細胞学会雑誌. 2012; 51(4): 281-285	術中迅速細胞診が有用であった肺MALT lymphomaの一 例.	刑部 光正	病理部
J Clin Exp Hematop. 2012;52(3):161-170	IgA production and tonsillar focal infection in IgA nephropathy.	大竹 浩也	病理部
中毒研究 2013;26(1):61-63	大量内服後3日以上経過して搬送されたふえのぼるび タール急性中毒の1例	富永 綾	薬剤部
日本病院薬剤師会雑誌 2013;48(4)445-448	東日本大震災における山形県医療支援活動での処方薬 の検討	富永 綾	薬剤部
日本病院薬剤師会雑誌 2013;48(9)1117-1120	測定法による薬物血中濃度への影響と透析の有無によ るバンコマイシン血清中濃度の違い	富永 綾	薬剤部
人工呼吸. 2012;29:256- 260	空気-酸素ブレンダーに起因する空気配管への酸素混 入トラブル	吉岡 淳	MEセンター

合計:173

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 久保田 功
管理担当者氏名	薬剤部長 白石 正, 看護部長 那須 景子, 総務課長 成田 博昭, 医事課長 菅原 幹夫

	保管場所	管理方法		
診療に関する諸記録 病院日誌	総務課	ファイルにて年度毎に分類, 保管している。		
各科診療日誌	看護部	ファイルにて年度毎に分類, 保管している。		
病棟日誌	薬剤部	紙面にて入院, 外来別, 月毎に分類, 保管している。		
処方せん				
手術記録, 看護記録, 検査所見記録, エックス線写真, 紹介状, 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部 (診療記録室)	カルテ等病歴資料や, エックス線写真は, 電子カルテ上で共にコンピュータによる集中管理を行っているが, 一部の診療科においては, 紙カルテで運用している。 手術記録や紹介状はスキャンした後, 原本を保管している。		
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	各担当でファイルにて年度毎に分類, 保管している。	
	高度の医療の提供の実績	医事課		
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課		
	高度の医療の研修の実績	総務課		
	閲覧実績	総務課		
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課		
	入院患者, 外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課, 薬剤部	各担当でファイルにて年度毎に分類, 保管している。	
	第規一則	医療に係る安全管理のための指針の整備状況		医事課
	項第一	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		医事課
	条第一	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		医事課
号の十一	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課		
掲一第	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課		
体項各	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課		
号確及	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医事課		
保の第	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課		
状九				
況条				
の二十三				

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医事課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター、 医事課
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 久保田 功
閲覧担当者氏名	医学部総務課長 成田 博昭
閲覧の求めに応じる場所	医学部事務部

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	79.7%	算定期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	8,831人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	7,707人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,681人	
	D: 初診の患者の数	15,141人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号及び第 9 条の 23 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： (1) 本院における医療の安全管理に関する基本的な考え方 (2) 本院における医療の安全管理のための組織及び体制に関する基本的事項 (3) 本院において医療の安全管理のために医療従事者に対して実施する研修に関する基本方針 (4) 本院における医療事故の報告等、医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 (5) 本院における医療事故等発生時の対応に関する基本方針 (6) 本院の医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 (7) 本院の患者からの相談への対応に関する基本方針 (8) その他、本院の医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 15回
・ 活動の主な内容： (1) 医療事故等の院内報告体制に関する事 (2) 医療事故等の原因分析、改善策の立案及び実施、並びに従事者への周知に関する事 (3) 医療事故防止に関する改善策の検証及び見直しに関する事 (4) 医療安全管理に関する啓発及び普及並びに研修に関する事 (5) その他医療安全管理に関する必要な事項	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 14回
・ 研修の主な内容： (1) 医療に係る安全管理のための基本的考え方及び具体的方策について、従業者に周知徹底を行うことで、個々の従業者の安全に対する意識・安全に業務を遂行するための技能やチームの一員としての意識の向上等を図る内容 (2) 当院における具体的な事例等を取り上げた内容 (3) 当院全体に共通する安全管理に関する内容	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) あらかじめ定められた手順、事故収集の範囲等に関する規定に従い事例を収集・分析することで、当院における問題点を把握し、組織としての改善策の企画立案及びその実施状況の評価し、これらの情報を共有する。 (2) 重大な事故の発生時には、速やかに管理者へ報告する。また、改善策については、背景要因及び根本原因を分析し、検討された効果的な再発防止策を立案する。	

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (2名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (14) 名 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> (1) 医療事故等防止対策委員会の会議に関する事、その他庶務に関する事 (2) インシデント報告の分析及び医療事故防止対策の策定に関する事 (3) 安全管理のための研修、啓発普及、教育等の企画立案及び実施に関する事 (4) 事故等に関する診療録等への記録の記載の確認・指導に関する事 (5) 事故発生時の患者及び家族への対応状況の確認・指導に関する事 (6) 事故等の原因究明についての確認・指導に関する事 (7) 医療安全管理に係る連絡調整に関する事 (8) その他医療安全対策の推進に関する事 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☑・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 本院における院内感染対策に関する基本的な考え方(2) 本院における院内感染対策のための委員会及びその他の組織に関する基本的事項(3) 本院における院内感染対策のために医療従事者に対して実施する研修に関する基本方針(4) 本院における感染症の発症状況の報告に関する基本方針(5) 本院における院内感染発生時の対応に関する基本方針(6) 本院の患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針(7) その他、本院の院内感染対策推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 重要な検討内容について、院内感染発生時及び発生が疑われる際の患者への対応状況を含め、管理者に報告する。(2) 院内感染が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに従業者への周知徹底を図る。(3) 感染対策委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行う。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 6回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 院内感染対策のための基本的考え方及び具体的方策について、従業者に周知徹底を行うことで個々の従業者の院内感染に対する意識を高め、業務を遂行する上での技能やチームの一員としての意識向上等を図る内容。(2) 病院の実情に即した内容。(3) 病院全体に共通する院内感染に関する内容。	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☑・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 毎月1回院内の感染状況のサーベイランスを実施し、感染対策委員会・感染制御部会議で報告。感染症の発生動向を共有し、院内感染の予防及びまん延の防止を図る。また、ICTラウンド時等の重点指導項目として活用する。 (MRSA, 多剤耐性緑膿菌等主要検出菌10数種を週報として把握)(2) 院内感染対策の指針に則した院内感染対策マニュアル「院内感染対策の手引き」を整備し、各部署に配布、ならびに院内ネットワークにより電子媒体で提供している。また、各部門の感染対策担当者が毎月感染制御部に周知状況を報告、ICTラウンド時にも周知状況・理解度等を確認することにより、その周知状況の把握・検証を図っている。	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 7回
・ 研修の主な内容： (1) 医薬品の有効性・安全性に関する情報，使用方法に関する事項 (2) 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に関する事項 (3) 医薬品による副作用等が発生した場合の対応に関する事項	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： (1) 本院で用いる医薬品の採用・購入に関する事項 (2) 本院における医薬品の管理に関する事項 (3) 本院の患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 (4) 本院の患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 (5) 本院における医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 (6) 本院と他施設との連携に関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 厚生労働省からの副作用情報 (2) 採用医薬品の一増一減徹底 (3) 危険薬のリスト作成，病棟への配布 (4) 最大投与量のチェックシステム構築	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 14回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 医療機器の有効性・安全性に関する事項(2) 医療機器の使用方法に関する事項(3) 医療機器の保守点検に関する事項(4) 医療機器の不具合等が発生した場合の対応に関する事項(5) 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (☑・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容： 特に保守点検が必要と考えられる医療機器に対する保守点検の状況は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none">①人工心肺装置及び補助循環装置については、始業点検及び定期点検(年1回)を実施している。②人工呼吸器については、始業点検及び定期点検(年1回)を実施している。③血液浄化装置については、始業時、使用中、終了時の点検及び定期点検(年1回)を実施している。④除細動装置については、定期点検(年1回)を実施している。⑤閉鎖式保育器については、定期点検(年1回)を実施している。⑥診療用高エネルギー放射線発生装置については、始業、終業点検及び定期点検(年4回)を実施している。⑦診療用放射線照射装置については、始業、終業点検及び定期点検(年1回)を実施している。⑧シリンジポンプ、輸液ポンプについては定期点検(年1回)を実施している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☑・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 医療機器添付文書等の管理(2) 医療機器の不具合や健康被害等に関する情報を病院長へ報告(3) 医療安全管理部との情報の共有や合同勉強会の開催	